

知事が県内各地に出掛け、三重を舞台に活躍している『若者』を紹介します。

三重の
若者の
チカラ

知事が行く! 突撃取材! 2



地域に人がつながっていく 場所をつくりたい

トシガ坂文庫 経営 豊田 宙也さん

尾鷲市九鬼町とは?

九鬼水軍発祥の地として知られ、明治から昭和にかけて日本三大ブリ漁場の一つとして栄えました。今は人口約450人の小さな漁村ですが、移住する人が増え続けています。



知事：豊田さんは、地域おこし協力隊の任期を終えた後も、九鬼町に残って活躍されていますが、町づくりのやりがいとはどのようなところにありますか。

豊田：古本屋や食堂の網干場あばばのお店づくりなど、東京などでは、こんなに簡単に店を任せただけだと思いませんし、チャレンジさせてもらえることだけでもやりがいになります。また、食堂は町の人々の要望を聞きながら進めていく形でしたが、古本屋は自分のやりたいことをまずやらせてもらい、町の人々の反応を見ながら変えていくことになります。皆さんの話を聞きながらやっていけるのが面白いと思います。

知事：町の皆さんからの反応も、どんどん出ていますか。

豊田：そうですね。地域おこして、さまざまな捉え方があると思いますが、僕は文字起こしの「おこし」が一番近いと思っています。皆さんの声を聞きながらカタチにしていくという感覚ですね。そこが面白いかなと思いますし、いろんなことをやらせてもらっています。

知事：なるほど。豊田さんは移住されてきたわけですが、県外から来たからこそ挑戦できたことや、この町で見えてきた良さはありますか。



豊田さんは、平成26年に地域おこし協力隊員として九鬼町に移住。昨年9月に協力隊を卒業した後も町に残り、九鬼町に昔の活気を取り戻そうと、さまざまな取り組みを行っています。



豊田さんに九鬼町を案内してもらいました。

豊田：例えばトンガ坂という名前もそうですが、僕は県外から来たので、この地域にまつわる言葉や言い伝えを教えてもらうのが面白かったですね。実際にお店の名前に使ってみると、町の人でも面白がってくれて、これまで知らなかった地元の若い方にも言葉が広まりました。その土地ならではの言葉に注目して残していくことは、ここで暮らしてきた人はなかなかやらないことだと思います。

知事：地元の人には地元の言葉を当たり前に使っていたかもしれませんが、初めて聞くと新鮮で面白い言葉だから、次世代に受け継いでいこうとなりますよね。地域ならではの言葉が自然消滅してしまうことがないように、世代間の橋渡し役をしている感じですね。では、豊田さんがよりよい地域づくりのために大切にしたいことは何ですか。

豊田：なるべく自然にできるようにしたいと考えています。食堂を復活させたり古本屋を作ったりすることは、自然にできていたということにはなりません。それは初めだけで、町の人が当たり前のように古本屋で売ってほしい本を持って来ていただけるようになるなど、自然な姿で段々と変わっていきけるようになるのいいと思います。

知事：いいですね。そのやり方は、三重県に向いていると思います。私も知事にならせてもらって8年目になりますが、県の施策でも一気に変えるのではなく、徐々に理解してもらいながら自然な形で変えていく方がいいと思っています。みんなが「こういうのは大切だね」と思って変えていくのが三重県に向いていると思います。では最後に、網干場とかトンガ坂文庫に続いて、今後、何か新しいことを考えていますか。

豊田：古本屋を開店できたのも、ここで4年間住み続けてきたからだと思います。その中で地元の方と出会い、店の改装を手伝ってもらった職人さんや、古本屋と一緒に経営している本澤さんなどつながりができたことで、新しいことに挑戦できるようになりました。今後は、これまで築いてきたネットワークを生かして、市民大学というようなものをつくりたいと考えています。名称は「尾鷲ヒト大学」です。岐阜で「白川郷ヒト大学」をされている方から声をかけていただいて、白川郷や沖縄の石垣島と3箇所連携していきたいと考えています。人がつながっていく場所をつくりたいと思っています。その中で学生街といえ



トンガ坂文庫の「トンガ」は、大風呂敷を広げる、という意味で、昔この辺りにトンガな人が住んでいたからトンガ坂と付けられたそうです。



約2000冊の本が揃っています。



トンガ坂文庫と一緒に経営している本澤さんを紹介してもらいました。

食堂とか古書店がありますので、トンガ坂文庫もそういった意味合いもあって作りたかったんです。

知事：なるほど。

豊田：事業というほどのものではありませんが、人と人がつながるちょっと大きめの新しい場づくりができればと思っています。

知事：ちょっと学んでみようという人が集い、人同士がつながる取り組みですか。

豊田：そうですね。知事は今も時間をつくって本を読んでもらえるようですが、僕は、こちらに来てから時間がなくて、ほとんど本を読めなくなりました。本を読むよりも、地域の人の話を聞くことの方が面白かったですね。僕と同じようによそから来る人には、この地域のことを知ることが面白いと感じてもらえると思っています。観光に来たいという人ではなく、この地域を知りたいという人を増やしたいと思っています。皆さんの好奇心を刺激するようなことが、やっていけたらいいなと思います。

知事：三重県で言えば、お伊勢参りなどで人やモノが交流することで、人々の好奇心が刺激され、豊かな県民性が育まれてきたように思います。そういう、さまざまな人やモノが交流する場ができればいいですね。これからも期待していますので、ぜひがんばってください。ありがとうございます。

豊田：ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



九鬼町で暮らしてできたネットワークを生かして人同士がつながる尾鷲ヒト大学をつくりたいと教えてくれました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570 三重県津市広明町13 ☎ 059-224-2788 FAX 059-224-2032 E-mail koho@pref.mie.jp